



なみ しろ かがや 波あとが白く輝いている

あおぬまよう と
蒼沼洋人作

こうだんしゃ
講談社

わたしは七海、小学六年生。十年前の震災で母さんを亡くし、おじいちゃんと暮らしている。

ある日、お母さんの小学校時代の同級生から、当時の交換日記を受けとった。日記には、わたしの知らないお母さんがたくさんつまっていた。頻繁に出てくるのが「海光祭」。それは、六年生が中心になっ

て地域と合同で開催するお祭りで、震災で途絶えてしまったらしい。

お母さんが大好きだった海光祭を復活させたい。コロナで大変でも卒業前に楽しい思い出を作るんだ。

